

大先輩の堀内忠久さん(53期)を悼む

上原 昇 (2組)

2月9日に堀内忠久さん(53期、丸子町出身)が亡くなりました。

今年いただいた年賀状には「本年で賀状の打ち止めとします。悪しからず。

齢八十五 願はくは卒寿まで・・・」とあっただけに残念な急逝でした。

堀内さんは、1996年(平成8年)から3年間、関東同窓会の幹事長を務めて、当時6千人規模の関東同窓会会員名簿をシステム化した功労者です。

幹事長退任後も、同会の副会長や顧問を長年、歴任されました。

高齢にもかかわらず、幹事会や総会などには必ず参加して、豊饒とした一言居士でもありました。筆者も同窓会絡みでお世話になり、思い出があります。

一つは、24年前の1997年のことです。関東同窓会総会の実行委員は60歳代の期から40歳代の期まで5期で構成されています。97年の総会には我々が最年少の実行委員期に当たりましたが、当時の我々は40歳代後半の現役バリバリで、同窓会の手伝いをする人は誰もいませんでした。

当時の幹事長、堀内さんから年会費を納付している65期の面々に「期の幹事を決めるように」とお達しがありました。私はクラス(2組)の仲間と相談した結果、クラス幹事に選ばれました。その旨を堀内さんに伝えたところ、「返事があったのは君だけだから、65期の代表幹事をやってくれ」ということになってしまい、それ以来、4半世紀におよぶ、同窓会との付き合いが始まりました。まんまと堀内さんの罠にかかったという次第です。

もう一つは、昨年のことです。関東同窓会の役員改選期にあたり、当時、顧問をお願いしていた堀内さんに、顧問を留任するか退任するかの確認を私(当時会長を務めていた)からすることになりました。堀内さんからの丁重な返事には

「老兵は、ただ去るのみ。あとは若い人にお任せします」とありました。

潔い花道を自ら作って、退任されたことに頭が下がる思いで受け止めました。

大先輩から、もう少し、いろんな話を聞いておけば良かったと残念な思いです。心よりご冥福をお祈り申し上げます。 合掌

【写真：故堀内忠久さん】

